

食品照射に関するアンケート

問【1】 あなたはご自分が食生活について関心の高いほうだと思いますか。あてはまる答えの番号をひとつだけ○でかこんで下さい。(SA)

1. 非常に関心がある 2. まあまあ関心がある 3. ほとんど関心がない

問【2】 問【1】で1.あるいは2.に○をつけた方に伺います。あなたはご自分やご家族の食生活との関連でどんなことに一番関心をお持ちですか。以下の項目からいくつでも選び、その番号を○でかこんで下さい。(MA)

1. 食べ物の味(おいしさ) 2. 鮮度 3. 値段 4. 安定した供給
5. 栄養価 6. 生産地(国内) 7. 輸入・国産の別 8. 輸入先国名
9. 品揃え 10. 安全性 11. 使いやすさ 12. 食品の種類
13. その他(記入:)

問【3】 食品の安全性や食生活の安全との関係で社会的に話題になることのある、以下の項目について伺います。あなたが不安を感じている項目をいくつでも選び、その番号を○でかこんで下さい。(MA)

1. 化学的合成による食品添加物 2. 化学的合成によらない食品添加物
3. 栄養補助剤 4. 残留農薬 5. 有機栽培 6. 遺伝子組み替え作物
7. カビ毒 8. サルモネラ菌 9. O-157 10. 環境ホルモン
11. 防腐剤 12. 健康食品 13. 油脂の酸化
14. その他(記入)

問【4】 あなたは上記1～14までの項目に関して知ったり、理解したりするために主にどんなところから情報を得ていますか、当てはまる答を3つだけ選び番号を○でかこんで下さい。(MA)

1. 新聞 2. 月刊・週刊誌 3. 一般書籍 4. 国・自治体等の冊子
5. TVニュース番組 6. TV生活情報番組 7. TVワイドショー
8. ラジオ番組 9. 職場や知人・友人からの情報 10. インターネット
11. 企業のパンフレット等 12. その他(記入)

問【5】 情報としてはどんなものを信頼しますか、同じく上記項目から2つを選び()内にその番号を記入して下さい。12については記入。(MA)

問【6】 あなたは今回のシンポジウムやアンケートに関わる以前に、「食品照射」あるいは「照射食品」という言葉を聞いた事がありますか。あてはまる答えの番号をひとつだけ○でかこんで下さい。(SA)

1. 言葉は聞いた事がある 2. 聞いた事はない 3. 内容までよく知っている

問【7】 あなたは食品照射について今までに解説や情報を受けた事がありますか。あてはまる番号をひとつだけ○でかこんで下さい。(SA)

1. 受けた事がある 2. 受けた事はない 3. 覚えていない

問【8】 以下に述べる「食品照射」に関連した説明文の内、あなたがご存知だった内容のものだけをいくつでも選び先頭の番号を○でかこんで下さい。

1. 照射食品に関しては国際的な規格が定められている。
2. 現在世界では30種類以上の食品が放射線照射の対象として許可されているが、将来すべての食品が対象となるということではない。
3. 日本ではじゃがいもの発芽防止のための放射線照射だけが許されている。
4. 食品照射に使われるのはコバルト60あるいはセシウム137を線源としたガンマー線の他、一定条件にかなったエックス線、電子線などである。
5. 食品に放射線を照射する実用技術においては、食品が放射能を帯びることはない。
6. 食品を照射することで起きる栄養価の変化は、一般的に行われているさまざまな調理による栄養素含量の低下より少ないと考えてよい。
7. 放射線を照射したかどうかを食品の外見、におい、味などで一般消費者が判断することは難しい。
8. 食品照射の目的の主たるものは腐敗や傷み、食中毒の原因となるような害虫の駆除、カビの防止、殺菌や滅菌である。
9. 天然の植物を原料とする香辛料の殺菌には7～10 キログレイの放射線を照射することで、香辛料の香味を損なうことなく食品衛生法の基準よりはるかに細菌数を少なくすることができる。
10. フランスでは冷凍のかえるの足や、えび、カマンベールチーズなどの放射線照射が行われている。
11. 1993年10月から沖縄県農産物が日本全国に自由に出荷できるようになったのは、放射線照射による害虫のウリミバエ根絶の結果である。
12. 1960年に開設された農林水産省の放射線育種場は現在は農業生物資源研究所に属すが、放射線を利用した農産植物の育種改良をすすめ、強風等に倒れにくい稲や黒斑病に強い梨などの成功例がある。
13. 食品照射による殺菌は農薬等と比べ、汚染や残留の問題が生じにくい。
14. 「照射食品の安全性と栄養適性」はWHO(世界保健機関)が1994年に出版した本のコープ出版による翻訳書である。

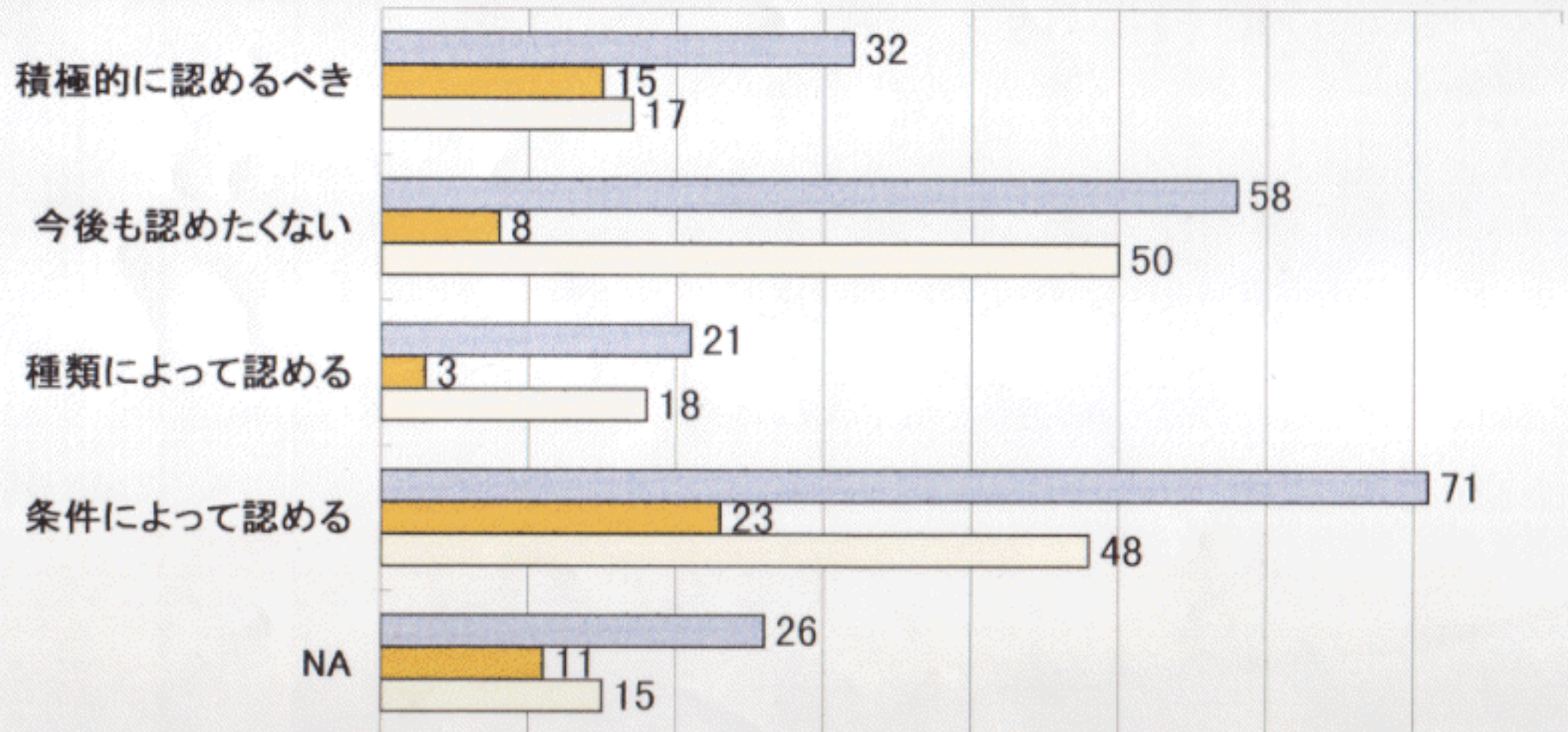
問 [9] このアンケートの内容も参考にされた上で、今後の食品照射技術の利用についてあなたのお考えにもっとも近い回答をひとつだけ選び、番号を○でかこんで下さい。

1. 食品照射技術はじゃがいもの発芽防止以外にも積極的に認めるべきだ
2. 食品照射は今後も認めて欲しくない
3. 食品の種類によっては認めてもよい (食品の例)
4. 条件によっては認めてもよい (条件の例)

問 [10] その他アンケート内容を含む食品照射に関するご意見、ご要望がございましたら下欄に自由にご記入下さい。

今後の食品照射技術に対する意向(男女別)

0 10 20 30 40 50 60 70 80



■ 全体 n=208 ■ 男性 n=60 ■ 女性 n=148

問9で4「条件によっては認める」を選択した人の条件(自由記入)

合計46件の意見の内安全性を問題にしたもの28件

特別な説明がなくても一般のTV、新聞等による十分な内容説明があればいいと思う。

外国の食品との整合性を考えて

安全性が確認された場合

食品の安全性や栄養価に悪影響を及ぼさなければ

人体への安全性が証明されていること

安全管理がきちり行われているかによる

情報公開

安全性の確認

放射線照射によって安全性が損なわれないことが科学的に証明されてから

照射することで(食品の中の物質が化学反応を起こし)有害物質ができないことを確認する

絶対に安全性の確保です

人体に害はまったくないのか

安全性

他に有効な消毒方法が無い場合

安全性の保障

安全性の確保

無害であることの確認ができれば

人体に悪影響が無い

規格が決められ確認できるものに限って

安全性確保のための情報開示

強すぎない照射レベル

次世代にとってもプラスになること

人体に異常を与えない

あくまで安全の上

より安全な食品を提供するため

安全ならば

公的機関の安全性確認

安全性確認

体に害の無い程度

他の国の実績があり問題を生じていないもの

安全性

情報の開示

安全の確保・資源の有効利用

安全性

本当に安全なのか

安全性の確認

安全性が確認されたもの

絶対に安全であること

照射時間が短くて安全な場合。

安全の確保

照射による毒性VSジャガイモの芽の毒性。どちらが大かによる比較論等。(統計をとるのは難しいだろうが。。)

安全基準の確立と外部検査

問9で2「今後も認めてほしくない」とした人の意見(自由記入)

環境破壊のことを考えると、あらゆる領域で今後なるべく人工的なことをなるべく控えた生産活動が望ましいと考えておりますので、食品照射の問題も、これ以上拡大する必要はないのでは、と考えております。何しろ、私たちの周りには食品はもとより「物」が氾濫しておりますから。

人知の及ぶ範囲は限りがあり、ひとつの事の研究で全てが見える訳ではないと思う。(安直な例で、10年前と現在ではお風呂の洗剤に対する危険性の認識 まぜるな危険)本当にわかった情報がどれだけ一般に公開されるかがまずスタートになると思う。研究・技術者はあえて議論に参加する義務がある。

でも本当に嫌。現状を大きく変えるのは無理なので安易に頼らないでほしい。

食品照射することによって、自然の連鎖機能を破壊することにはならないのか、本当の意味での安全性を消費者に説明することで初めて企業は流通するべきだと思います。今野に本だけの社会を見ているかぎりではあいまいなことが多すぎて、なんらかの悪影響が出てからも対処するまでの時間がかかりすぎて、不安がつきまといまいます。確実に信頼性のある情報をいただけるようお願いします。

私は食品会社に勤めてますが最近衛生面の問題に力を入れるようになりました。さまざまな殺菌の方法を勉強していくうちに食品照射という技術があることを知りました。最初は「菌を殺す目的なら」という点で使った方が良いのでは、生産性が上がるのでは、などと考えていましたが、それ以外の点(安全性)について、よくわからないことだらけで、本当は良いのか悪いのか私自身困っています。

初歩的なところからわからないので正しい、かたよりのない話を伺いたいと思います。

科学的化学的なものに頼り過ぎるのは自然の摂理から離れ過ぎる。照射を認めるということはそこに必要なエネルギーがまた新たなコストを生むであろうし、無理な流通や栽培の結果照射したくなるのであろう生産者側(流通サイド)の希望であり、消費者は決して望んでいない。それは事実を(実際)知る知らないで、人間の本能だと思う。こんな便利な消費社会は異常です。人間(私たち)は滅びるのではないのか?これ以上自然を操作するのはもうやめるべきではないか。恐ろしい。少なくとも日本の農産物には不要ではないか。スパイスが重要産品でもないし。

食品照射の安全性に関するデータはどこで出ているのでしょうか。

照射の有無の判断はだれが行って、消費者が購入時に表示により選択する体制はどこが所管しているのでしょうか

WHOと日本の厚生省の見識の違いがあるならそれを聞かせて下さい。

我々一般消費者として言えることは、販売店の仕入れ品質検査の技術向上と、信頼できる店を選び、また自ら情報を得、生活・食品をえらんでいきたい。

食品照射の目的と人間への害など良く理解していないのが現状です。知らないところでそれらが行われていることを消費者としてきちんと把握しなくてはならないし、食品を供給する側も情報として提供すべきだと思います。

私たちの子供の頃はアトピー性・アレルギー等の体質の子はおりましたが、近頃の子供はアレルギー・鼻炎の子が多く、体質も変わってきて、虚弱な子が目立ってきています。将来長生きできるのかどうか心配です、これらを踏まえて食生活の安全がやはり心配になります。

放射線に対する恐怖はありませんが、できるだけ自然のままのものを摂取したいと考えています。しかし外的な条件もいろいろ変化しているのでやむをえないのだと思います。内外あわせて4人の孫がいますが、この子らの未来を考えるといろいろあります。自宅で気を使っても外食産業・学校給食等いろいろ問題ありますので。

日本および世界がどのくらい食品照射され、市場で出回っているか現状を知りたい。

公開されている情報でも一般に知られていない事実が多いので問題とされないことが多い。わかり易く知る手がかり(媒体)が必要だと思う。

食品照射に対する知識が希薄であり、判断材料が少ないためアンケートに対しての正確な回答が出来ないことが残念です。もっと知識をもった上で問9の回答をしたいと思いました。とりあえず現段階では人体に対する影響がわからないので2を回答。

知識がなくて良く分からない。遺伝子組換え食品と同じレベルの恐怖を感じる。

問9で3「食品の種類によっては認めて良い」とした人の意見(自由記入)

いったい何が正しい情報なのかそれがわからないことが一番困ります。

内容をよく知らされず不安に思っている人が多いと思うので、事実を積極的に知らせる必要を感じます。

食品照射については以前新聞かなにかで読んだ程度の知識しかありません。栄養価や風味等への影響、安全性、諸外国での実例や普及の程度、日本での今後の実施の可能性など教えていただきたいことが多々あります。よろしくお願いします。

正直食品照射は安全と学んでも、一消費者の立場に戻ると、本能から「放射能」に対するアレルギーが顔をのぞかせ、自然食品やら何やらとこだわるのは事実です。なかなか不安はとりのぞけないですね。

「食品照射」に関する説明文をよく読み知らないことが多いことに気づきました。広く一般国民に対し正しい情報が広報されることを望みます。

日本は原子力に対し、過敏すぎると思う。「被曝していない」と派別に、安全面をもっとPRすべき。(発電・食品照射etc) 遺伝子組換え食品や食品照射の問題はマスコミがあまりにも消費者に不安感ばかりを煽り立てているような気がします。もう少し柔軟な取り組みが必要なのではないでしょうか。